

三重県の地震活動（令和4年12月）

令和5年1月16日
津地方気象台

【概況】

【県内で震度1以上を観測した地震】

今期間、三重県内の震度観測点で震度1以上の地震を2回観測しました。

- ① 2日 08時44分、奈良県を震源とする地震（M3.7、深さ11km）により、伊賀市で震度2を観測したほか、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市で震度1を観測しました。
- ② 18日 14時45分、伊勢湾を震源とする地震（M3.4、深さ13km）により、松阪市で震度1を観測しました。

【震央分布図】（深さ0~500km、M0.5以上）

2022.12.1 00:00 — 2022.12.31 24:00

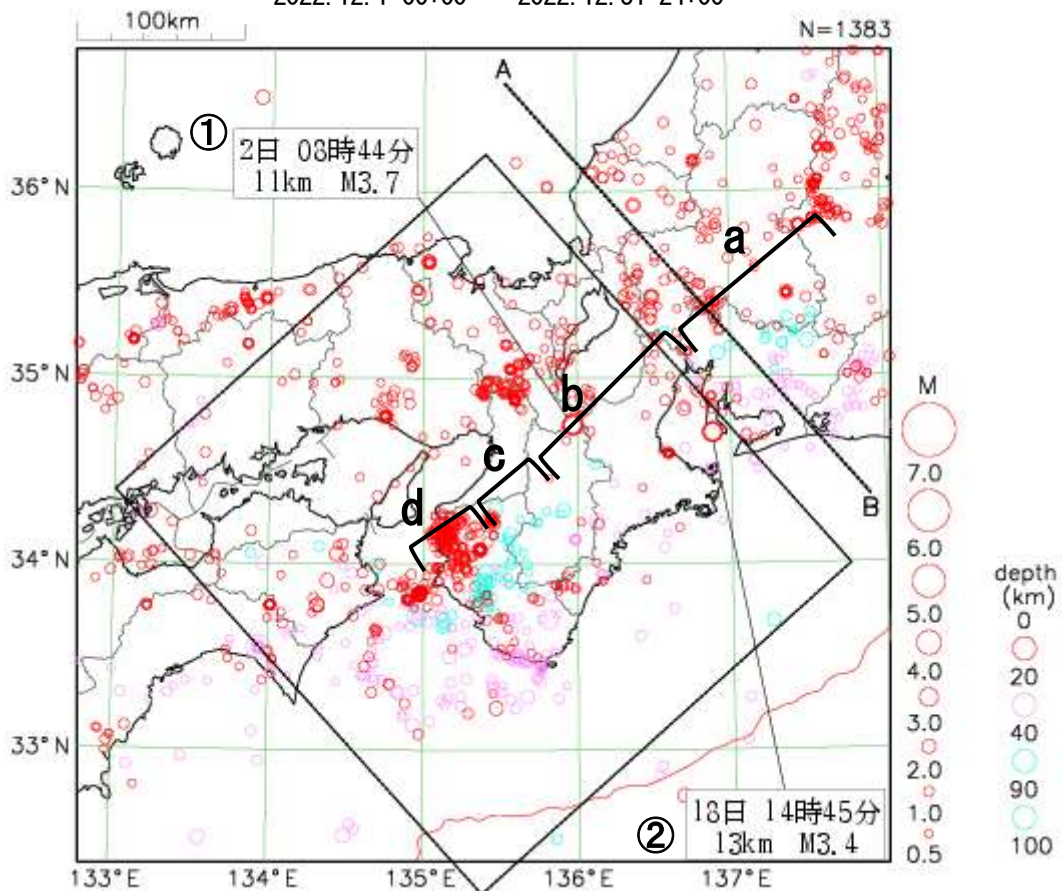


図1. 12月の主な地震活動

図中のa、b、c、dの黒枠で示す領域で、深部低周波地震を観測しました。
（詳しくは、後述の【深部低周波地震の観測状況】を参照下さい。）

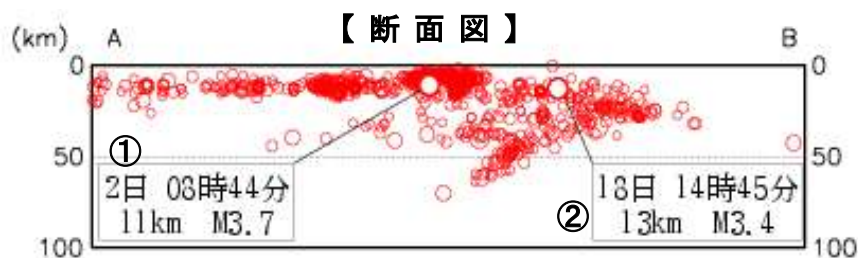


図2. 震央分布図の矩形内の震源
測線（A-B）の鉛直スクリーンに投影してプロットしたもの

【県内で震度1以上を観測した地震】

① 2日 08時44分、奈良県を震源とする地震（M3.7、深さ11km）により、伊賀市で震度2を観測したほか、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市で震度1を観測しました。この地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ型で、地殻内で発生したと考えられます。

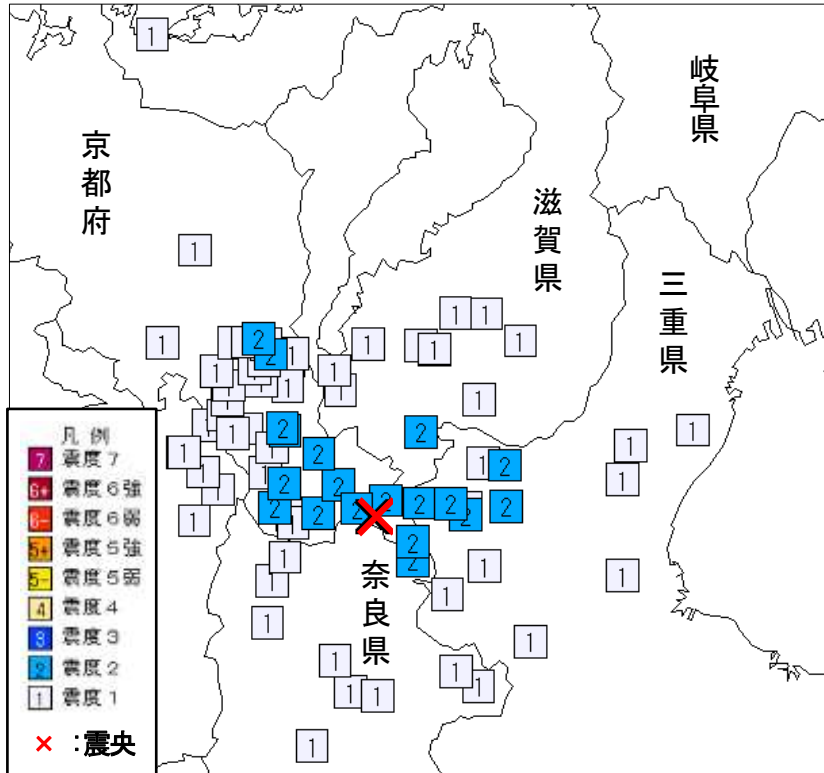


図 3. ①の地震の観測点震度分布図

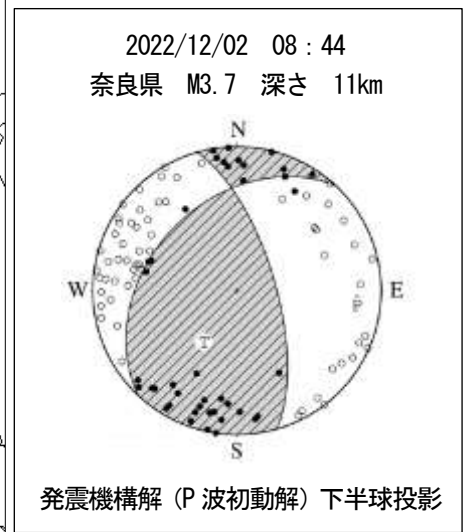


図 4. ①の地震の初動発震機構解

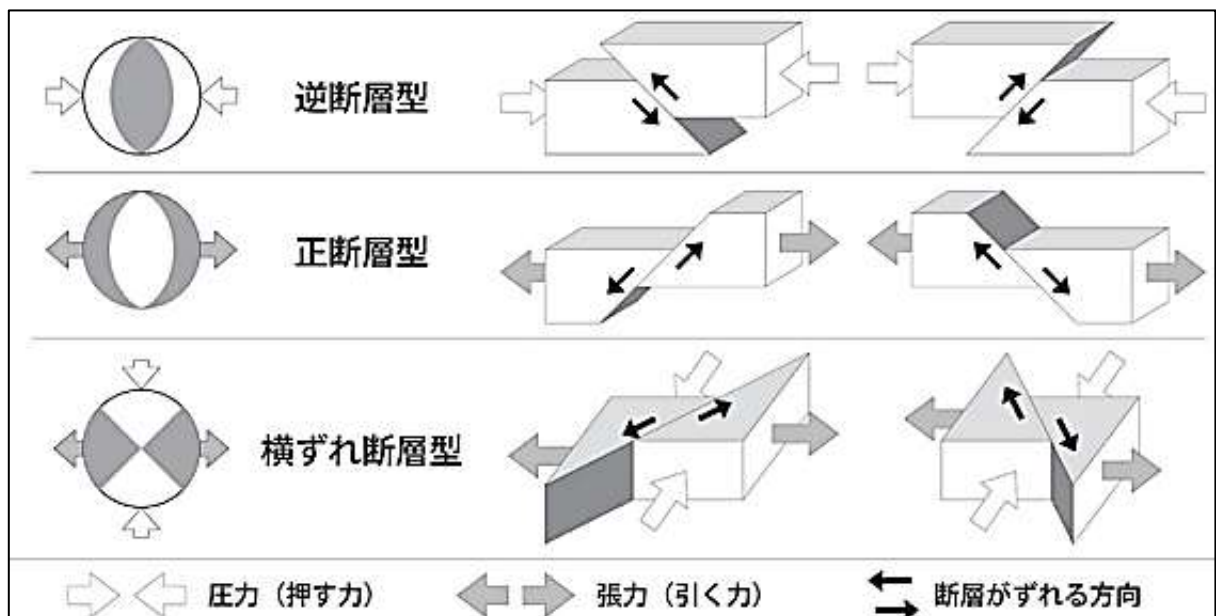


図 5. 発震機構解と断層の型の対応関係の典型的な例

② 18日14時45分、伊勢湾を震源とする地震（M3.4、深さ13km）により、松阪市で震度1を観測しました。

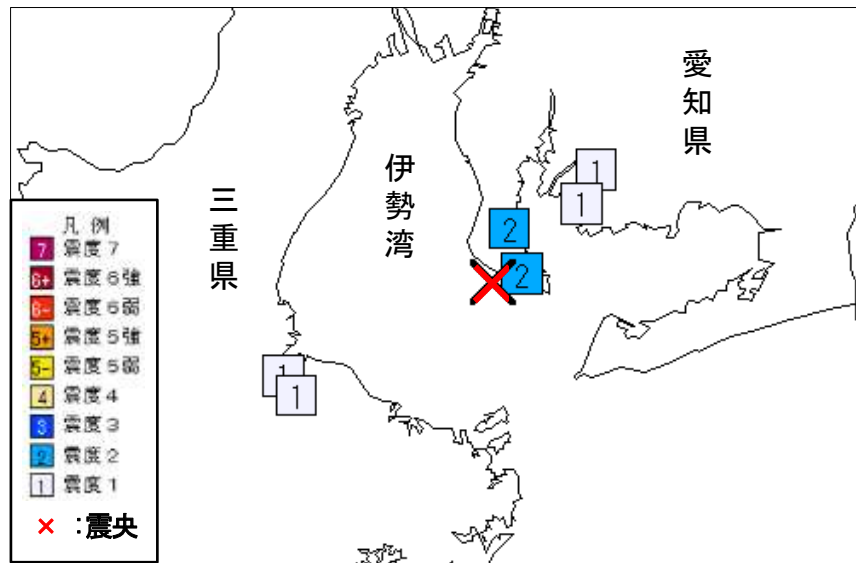


図6. この地震の観測点別震度分布図

【県内地震表（震度1以上）】（*印のついている地点は地方公共団体または防災科学技術研究所の観測点）

番号	震源 日時分	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	最大震度(全国)	
		各地の震度						
①	2日08時44分	奈良県	34° 44.8' N	135° 58.1' E	11km	M3.7	2	
		三重県	震度 2：伊賀市小田町*、伊賀市下柘植*、伊賀市島ヶ原*、 伊賀市四十九町*、伊賀市平田* 震度 1：鈴鹿市西条、亀山市本丸町*、津市芸濃町棕本*、 津市一志町田尻*、津市美杉町八知*、名張市鴻之台*、 伊賀市緑ヶ丘本町、伊賀市馬場*、伊賀市阿保*					
②	18日14時45分	伊勢湾	34° 42.2' N	136° 52.8' E	13km	M3.4	2	
		三重県	震度 1：松阪市上川町、松阪市魚町*					

【過去1年間に三重県内で震度1以上を観測した地震の月別回数表】

2022年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
6	1	4	6	1	2	1	1	1	2	1	2

【深部低周波地震の観測状況】

領域 a (東海) では 13 日、18~19 日、領域 b (紀伊半島北部) では、6~7 日、12~22 日、26~27 日、31 日、領域 d (紀伊半島西部) では 2 日、13~14 日、24~27 日、30~31 日に深部低周波地震を観測しました。赤色が今期間に観測された深部低周波地震です。

※深部低周波地震はその地震波形の特徴から震源を精度良く求めることが難しく、震源が震央分布には表示されないことがあるため、実際はもっと数多く発生していると考えられます。

※図 7~図 10 では、震源の精度がやや劣る地震についても表示しています。

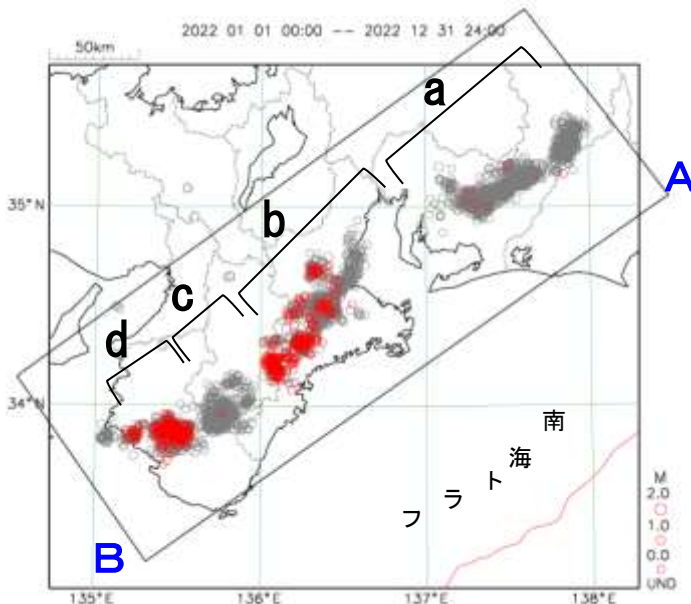


図 7. 過去 1 年間の深部低周波地震の震央分布図
(2022 年 1 月 1 日~2022 年 12 月 31 日)
2022 年 12 月に発生した地震を赤色で表示しています

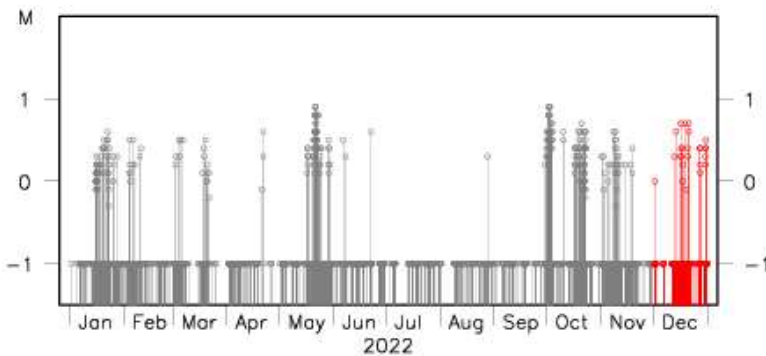


図 8. 図 1 の矩形内の M-T 図(地震活動経過図)
2022 年 12 月に発生した地震を赤色で表示しています。
M が -1 以下や M が不明な地震は全て -1 としています。

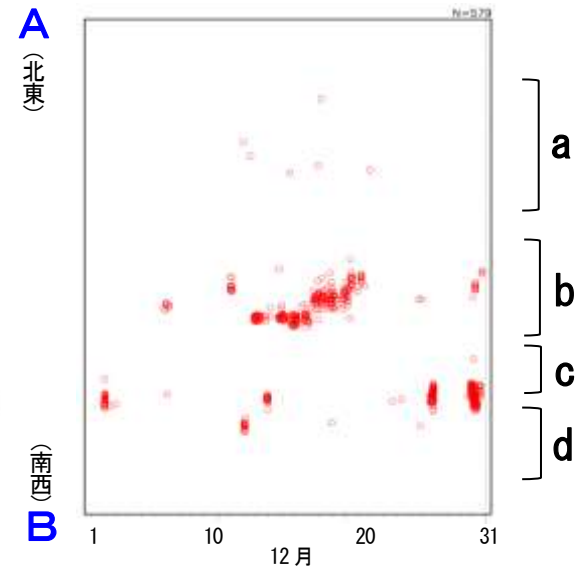
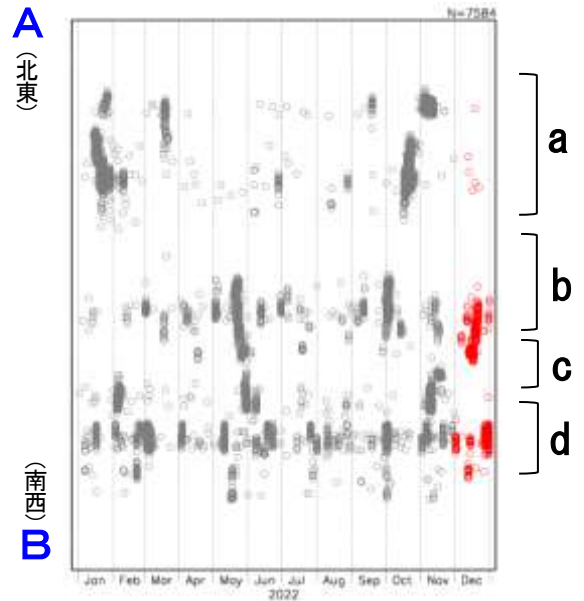


図 9(上) 過去 1 年間に発生した深部低周波地震の時空間分布図
縦軸：図 8 中の A-B を投影 (概ね北東-南西方向)
横軸：期間 (2022 年 1 月 1 日~2022 年 12 月 31 日)
図 9(下) 図 9 の今期間部分 (2022 年 12 月 1 日~12 月 31 日)

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (よしが浦温泉、飯田小学校)、米大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

・資料についての問い合わせ先 津地方気象台 電話：059-228-6818 ・この地震活動図は津地方気象台ホームページ「三重県の気象・地震活動・気象速報など」に過去3ヶ月分掲載されています。アドレス：<https://www.data.jma.go.jp/tsu/overview/overview.html>



100年前の関東大震災から学び、将来の災害に備えよう！ ～「関東大震災から100年」特設サイトを開設します～

今年は、甚大な被害をもたらした関東大震災から100年にあたります。関東大震災を振り返るとともに、今後の地震に適切に備えていただくために必要な防災知識等に関する情報を掲載しています。



https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1923_09_01_kantoujishin/index.html

《 掲載内容の例 》

関東大震災の際には、土砂災害ならびに津波によって甚大な被害が発生しました。

土砂災害 大正関東地震では、関東南部の山地や丘陵地・台地の縁辺部で、地震による強い揺れによって崩壊や地すべり、土石流などによる土砂災害が多数発生しました。土砂災害が多発した理由として、前日にかなりの降雨があったことが要因の一つと考えられています。

津波 大正関東地震は、震源域が相模湾内にあったため、三浦半島から伊豆半島東岸に高さ数m以上の津波をもたらしました。早いところでは地震後5分程度で津波が襲来し、津波の高さは静岡県熱海で12m、房総半島の相浜で9.3mとなりました。